

『とことん極める！腎盂腎炎』

正誤表

いつも小社出版物をご利用いただき誠にありがとうございます。当該書籍に以下の誤りがございました。深くお詫びするとともにここに訂正いたします。

■ p.11 III 除外すべき疾患の見出しから 4 行目

【誤】

発熱・側腹部痛の症状で来院し得る胆嚢炎や胆肝炎、肝膿瘍などの肝胆道系感染症については確実に除外が必要である。

【正】

発熱・側腹部痛の症状で来院し得る胆嚢炎や胆管炎、肝膿瘍などの肝胆道系感染症については確実に除外が必要である。

■ p.45 図 3 キャプション

【誤】

- c A line が描出される機序。超音波（青矢印）がガスとトランスデューサーとの間で反射を繰り返し、徐々に減衰していく。
- d B line が発生する機序。超音波（青矢印）が気体 - 液体界面で共鳴を起こし、連続波をトランスデューサーへ返している（青の小矢印）。
- e comet tail artifact が描出される機序。超音波はガス内の浅い側と深い側の間で反射を繰り返し（青矢印）、徐々に減衰して超音波がトランスデューサーに戻っている。
- f dirty shadow が描出される機序。超音波はガスの奥で多方向に反射している（青矢印）。

【正】

- c A line が描出される機序。超音波（矢印）がガスとトランスデューサーとの間で反射を繰り返し、徐々に減衰していく。
- d B line が発生する機序。超音波（矢印）が気体 - 液体界面で共鳴を起こし、連続波をトランスデューサーへ返している（小矢印）。
- e comet tail artifact が描出される機序。超音波はガス内の浅い側と深い側の間で反射を繰り返し（矢印）、徐々に減衰して超音波がトランスデューサーに戻っている。
- f dirty shadow が描出される機序。超音波はガスの奥で多方向に反射している（矢印）。

■p.135 II 神経因性膀胱 の見出しから 5行目

【誤】

機能からも、**蓄尿**機能と排尿機能のどちらに障害をきたしているのか評価するが両者を合併することも多い。薬物治療は**蓄尿**障害であれば抗コリン薬などが用いられ、排尿障害であればコリン作動薬や α_1 受容体作動薬が用いられる(表1)。

【正】

機能からも、蓄尿機能と排尿機能のどちらに障害をきたしているのか評価するが両者を合併することも多い。薬物治療は蓄尿障害であれば抗コリン薬などが用いられ、排尿障害であればコリン作動薬や α_1 受容体作動薬が用いられる(表1)。

■p.136 表1内 神経因性膀胱治療薬（コリン作動薬）の“特徴”の列

【誤】

- α_1 遮断薬も使用される（ウラビジルのみ神経**陰性**膀胱に適応があり使用可能）

【正】

- α_1 遮断薬も使用される（ウラビジルのみ神経因性膀胱に適応があり使用可能）

2025年4月現在